２０２６（令和８）年度版函館市環境白書（案）への

事前意見に対する回答

Ｎｏ	意　　見　　内　　容	回答部課	頁
１	**【三上委員】**		
①	カシノナガキクイムシによる被害への対応	環境政策課	１
②	一般廃棄物総排出量の推移	環境推進課	２
③	地球温暖化に関する講座やイベント等の参加者数	環境政策課	３～５

２０２６（令和８）年度版　函館市環境白書（案）への事前意見に対する回答

白書 頁	総論	回答部課	環境政策課 （農林水産部・土木部）
№1-①	○　カシノナガキクイムシによる被害への対応 　現在，函館市内でもカシノナガキクイムシによる被害が散見されるように思いますが，函館市では，カシノナガキクイムシによる被害状況について，部署や関係機関を横断して情報を共有・集約する仕組みはあるのでしょうか。また，市内全体の被害状況を把握した上で，対策を検討する体制は整っているのでしょうか。		

○　カシノナガキクイムシによる被害，いわゆる「ナラ枯れ」につきましては，
国と北海道が上空調査や現地調査を実施して被害情報を集約管理しており，
北海道の「ナラ枯れ被害拡大防止対策会議」などを通じて，
各行政機関にも共有されているところでございますので，
これらの情報については，所管の農林水産部から関係部局（土木部，
戸井支所，恵山支所，椴法華支所，南茅部支所）へ共有しております。

○　また，被害木処理などの対策につきましては，
「北海道ナラ枯れ被害対策基本方針」において，
原則として所有者または管理者が行うこととされており，
本市では，被害地域の拡大に影響する可能性が高い「被害先端地域」に該当する
森林地域の被害木処理などを農林水産部が実施し，
二次被害防止に必要な範囲を重点処理する「被害継続地域」に該当する
市内の公園や緑地帯，街路樹等については．施設の所管である土木部が
被害木の処理や健全木の保護などの対応を実施しております。

○　このほか，市内の公園や街路樹等を管理する
公益財団法人函館市住宅都市施設公社でも，
日常の維持管理業務や現地調査を通じて被害状況の把握に努めており，
現地の確認状況は，土木部へ随時報告されているなど，
関係部局などで連携を図りながら対応しているところでございます。

２０２６（令和８）年度版　函館市環境白書（案）への事前意見に対する回答

白書 頁	本編　Ｐ８	回答部課	環境推進課
№1-②	一般廃棄物総排出量の推移 　函館市では人口減少とともに高齢化も進んでいます。 　仮に，高齢者のほうが若い世代よりもごみの排出量が少ないとすれば，高齢者の割合が増えるだけでも，市民１人当たりの平均排出量は減少することになるので，１人当たりのごみ排出量の減少が，個々の市民の行動変化によるものなのか，人口の年齢構成の変化によるものなのかは，区別して考える必要があると思います。 　仮に年齢構成の変化が主な要因であれば，これまで実施してきたごみ減量に関する普及啓発活動の効果についても，評価を見直す必要があるかもしれませんので，年齢構成の変化１人当たりのごみ排出量の減少にどの程度影響しているのか，検証してみてはいかがでしょうか。		

○　本市のごみ排出量や１人１日当たりの
ごみ排出量につきましては，減少傾向にありますが，
このうち，家庭系ごみの１人１日当たりのごみ排出量については，
一般的に世帯の構成人数が少なくなるほど，多くなる傾向があり，
また，１人世帯の場合，高齢者は，その他の年代の方よりも
ごみの排出量が多いという他都市の調査結果がございます。

○　このようなことから，本市におきましては，少子高齢化の進行に伴い，世帯の構成人数の減少に加え，高齢化率も高く，１人１日当たりのごみ排出量は増加する状況にあると考えられますが，
近年では，減少しているところであり，その要因としては，
物価高騰のほか，日乃出清掃工場焼却炉の更新工事に伴うごみ排出抑制へのご協力などが影響しているものと考えます。

○　従いまして，市といたしましては，様々な要因があるなかで，ご質問のように，年齢構成の変化により排出量減少の影響を検証するのは難しいものでありますが，
市民の皆さま一人ひとりのごみ減量の取り組みが排出量の減少につながる大きな要因と考えていることから，
今後とも，ごみの減量に関し，広く周知啓発を図ってまいりたいと考えております。

２０２６（令和８）年度版　函館市環境白書（案）への事前意見に対する回答

白書 頁	第２編　Ｐ３	回答部課	環境政策課
№1-③	地球温暖化に関する講座やイベント等の参加者数 前年度から大きく増加していますが，増加の理由を教えてください。 白書 35 ページの表 2-17 では，「はこだて FOOD フェスタ」の参加人数が約 2 万 7 千人となっており，このような大規模イベントを活用した環境に関する普及啓発は重要であり，今後もぜひ継続していただきたいと思う一方，環境啓発そのものを目的とした講座やイベントと，別の目的で開催された大規模イベントの中で付随的に環境啓発を行った場合とでは，参加人数の意味が少し異なるように思います。 大規模イベントにおける普及啓発活動は，通常の講座やイベントとは別枠で集計・評価することも検討してよいのではないでしょうか。		

○　はじめに，本編Ｐ３５「表 2-17 2025(令和７)年度啓発事業実施状況」および
第２編Ｐ３「表 3-13 基本方針５　環境教育・連携体制の推進」を
別紙正誤表のとおり修正いたします。

○　地球温暖化対策を進めていくためには，
市民，事業者，市などが気候変動問題をはじめとした，
地球環境問題に関心を持ち続け，自ら率先して行動することが大切なことから，
効果的な情報提供や人材育成を推進するとともに，連携体制の充実を図っていくため，
本市では，地球温暖化対策実行計画（区域施策編）において，
地球温暖化に関する講座やイベントなどの参加者数の 2030(令和 12)年度目標を
年 10,000 人以上と定め，各種取り組みを行っているところでございます。

○　2025(令和７)年度の参加者数が大幅に増加した主な要因といたしましては，
市内の大規模食イベントである
「グルメワンダーパーク函館」と，「はこだてＦＯＯＤフェスタ」において
ごみ分別や食品ロス対策などに関する啓発を実施したことによるものでございます。

○　より多くの皆さまに向けて啓発をおこなっていくためには，
今後も，大規模イベントの活用が効果的であると考えておりますことから，
頂いた意見も参考にしながら，引き続き環境啓発に取り組んでまいりたいと
考えております。

正誤表

○　本編Ｐ３５「表 2-17 2025(令和７)年度啓発事業実施状況」

修正前

事　　業　　名	開期	参加者数等	備　　考
はこだて・エコフェスタ （函館 蔦屋書店）	R7. 9	約 1, 800 人	フードドライブ，スタンプラリー，クイズ，パネル展示，リユース自転車の展示・抽選，工作教室など
プラスチックごみ 削減キャンペーン	R7. 5	39 店	協力店での店内放送とポスター掲示(38 店)，使用済みプラスチック製筆記具等の拠点回収(１店)など
環境学習「ビーチコーミング」	R7. 7	74 人	海岸探索&アート作品づくり
こどもエコクラブ	R7. 7～ R8. 3	143 人	ビーチコーミング，ごみ分別・地球温暖化クイズなど
スクールエコニュース作品展 （市役所本庁舎，中央図書館）	R8. 3	2 校 8 作品	最優秀作品「エコ×実験で考える『食べられる皿の可能性』」（湯川中学校）
はこだてカルチャーナイト （企業局交通部駒場車庫）	R7. 9	約 200 人	パソコンゲームによる地球温暖化に関するクイズ
冬休みエコチャレンジ事業	R7. 12～ R8. 1	18 校 281 人	市内の小学 4～6 年生を対象とした省エネの実践
グルメワンダーパーク函館 での環境啓発ブース出店	R7. 9	約 500 人	ブース出店（クイズ，シーグラス工作体験，ごみ分別アプリのダウンロードなど）
はこだてＦＯＯＤフェスタ での環境啓発	R8. 2	約 27, 000 人	ゴミステーションでの分別啓発，飲食テーブルへの食品ロス啓発ポップ設置，エコ宣言の森づくりなど
環境保全出前講座	年間	1, 523 人	開催件数　46 回（学校関係分 5 回　267 人）
リサイクルセンター施設見学	年間	3 団体 69 人	学校関係分　2 団体　48 人

修正後

事　　業　　名	開期	参加者数等	備　　考
はこだて・エコフェスタ （函館 蔦屋書店）	R7. 9	1, 800 人	フードドライブ，スタンプラリー，クイズ，パネル展示，リユース自転車の展示・抽選，工作教室など
プラスチックごみ 削減キャンペーン	R7. 5	39 店	協力店での店内放送とポスター掲示(38 店)，使用済みプラスチック製筆記具等の拠点回収(１店)など
環境学習「ビーチコーミング」	R7. 7	74 人	海岸探索&アート作品づくり
こどもエコクラブ	R7. 7～ R8. 3	143 人	ビーチコーミング，ごみ分別・地球温暖化クイズなど
スクールエコニュース作品展 （市役所本庁舎，中央図書館）	R8. 3	2 校 8 作品	最優秀作品「エコ×実験で考える『食べられる皿の可能性』」（湯川中学校）
はこだてカルチャーナイト （企業局交通部駒場車庫）	R7. 9	200 人	パソコンゲームによる地球温暖化に関するクイズ
冬休みエコチャレンジ事業	R7. 12～ R8. 1	18 校 281 人	市内の小学 4～6 年生を対象とした省エネの実践
グルメワンダーパーク函館 での環境啓発ブース出展	R7. 9	13, 080 人	ブース出展（クイズ，シーグラス工作体験，ごみ分別アプリのダウンロードなど）
はこだてＦＯＯＤフェスタ での環境啓発	R8. 2	4, 200 人	ゴミステーションでの分別啓発，飲食テーブルへの食品ロス啓発ポップ設置，エコ宣言の森づくりなど
環境保全出前講座	年間	1, 523 人	開催件数　46 回（学校関係分 5 回　267 人）
リサイクルセンター施設見学	年間	3 団体 69 人	学校関係分　2 団体　48 人

正誤表

○　第２編Ｐ３「表 3-13 基本方針５　環境教育・連携体制の推進」

修正前

指　　標	2020 年度 （計画策定時）	2024 年度	2025 年度 （現状値）	2030 年度 （目標値）
地球温暖化対策につながる行動や商品・サービスなどを選択しようとする人の割合※４	75.0%	91.2%	89.8%	100%
指　　標	2021 年度 （計画策定時）	2024 年度	2025 年度 （現状値）	2030 年度 （目標値）
地球温暖化に関する講座やイベント等の参加者数	年 4,711 人	年 5,116 人	年 20,883 人	年 10,000 人 以上

修正後

指　　標	2020 年度 （計画策定時）	2024 年度	2025 年度 （現状値）	2030 年度 （目標値）
地球温暖化対策につながる行動や商品・サービスなどを選択しようとする人の割合※４	75.0%	91.2%	89.8%	100%
指　　標	2021 年度 （計画策定時）	2024 年度	2025 年度 （現状値）	2030 年度 （目標値）
地球温暖化に関する講座やイベント等の参加者数	年 4,711 人	年 5,116 人	年 20,155 人	年 10,000 人 以上